

## 「超 音 波 医 学」

—基礎から臨床まで—

編集=日本超音波医学会

千葉大学産婦人科・米国超音波医学会会員

小 林 充 尚

最近の超音波診断学の発展は、まことに目ざましいものがあり、各科臨床分野において、不可欠の routine の検査としての確固たる地位を築きつつあるのは、周知の事実である。

日本における超音波診断学の研究は、世界においてもパイオニア的地位を占めているといっても過言ではなく、1966年に、この初版が発行された日本超音波医学会編の「超音波医学」は、当時、世界にさきがけて出版されたものであった。

今回、その第2版の「超音波医学」が、新たな内容をもって、6年の歳月をへて、世に出た。これは、最近の目ざましい超音波医学の進歩を充分にとり入れ、初版に全面的改訂を施したものであり、本書の編集関係者および執筆者名を通覧すれば、本書が基礎的および臨床研究の有機的融合を象徴し、文字どおり日本の超音波医学界の総力の結集であることが容易に理解される。内容はもちろん、世界のトップレベルにあり、これだけ comprehensive な本はアメリカを含めて、現在、他国に見当らない。

近年の超音波診断学の長足の進歩は、基礎的ないし technological な発達と臨床分野における研究者の努力によるものであり、両者の進歩が

パラレルでなければ、満足な結果は期待できない。本書の編集、執筆者の中には世界の超音波医学史上パイオニアとして認められている名前がずらりと並んでいる。1966年に、すでに本書の第1版を出している日本の超音波医学は、世界のトップレベルにあることは疑いないが、ここに第2版が出るに及び、さらにそれを証明した形となった。

将来1～2年以内に何冊かの基礎的および臨床的各科をカバーした超音波診断に関する本が、米国より出版される予定であるが、本書のごとく、comprehensively に全域をカバーしている本は、まずないのではなからうか。もちろんかかる本は、現在のところ見当たらないし、将来ともその貴重な価値は持続するものと確信する。

本書はまず基礎篇にて、超音波の物理的ないし Bioengineering についての全般的基礎的知識について詳述し、次いで臨床各分野における超音波の応用につき、きわめて多方面にわたって、それぞれ得意の領域における qualified の専門研究者によりカバーされている。その領域も広く、頭蓋内疾患、乳腺、消化系、循環系、甲状腺、肺・縦隔洞、耳鼻科、小児科、産婦人科、眼科、泌尿

器科、精神神経科、整形外科さらには歯科、人類学、獣医学科などについて診断的応用のみならず、ときに治療についても述べている。その他およそ超音波と関係あると思われるものについては、すべて記述されているといっても過言ではない。

本書は、このように、多数の権威ある基礎的ならびに臨床研究者が、ガッチリと手を組んでまとめあげた超音波というトピックに関してあらゆる知識、データーを網羅したバイブルともいうことができよう。

超音波の Biomedical な応用、臨床診断に関して、いささかでも興味をもつ人は、本書にてさらに本格的な興味をいただくことになろうし、すでに超音波診断に携わっている者にとっては、座右の書として備えておきたい本の1つである。さらに、それぞれの臨床各分野にて日夜超音波診断に従事している者にとっても広く自分の専門外の領域についての最近の進歩を知る上のよきガイドブックともなろう。

広く各科臨床医および Ultrasound Technologists に、おすすめする次第である。

(B5・620頁・図367・写真340・10,800円・〒300円・医学書院刊)